

テンプス

2015年（平成27年）55号



まぼろしのやきもの 昭和の水間焼

陶芸家 中野梧月

も く じ

陶芸家中野梧月と昭和の水間焼

文化財防火デー消防訓練を行いました

市内の古文書調査から

古文書講座 - 市内にのこる身近な古文書 -

平成26年度の埋蔵文化財調査

先生も学びを深めています「誇れる貝塚」講座

第104回かいつか歴史文化セミナー「春の町家の雛めぐり」



水間窯 工房棚

陶芸家中野^{ごげっ}梧月と昭和の水間焼

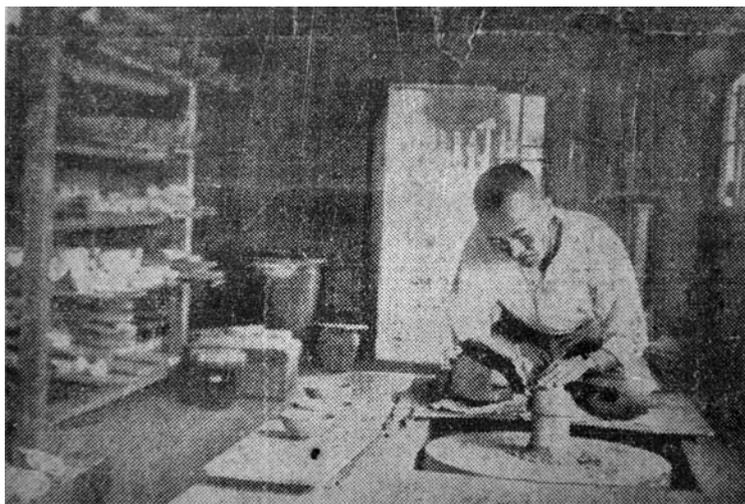
「水間焼」は、現在に至るまでその名が受け継がれている貝塚市域で作られてきた焼物の一つです。江戸時代以前の詳しい記録は残っていませんが、明治時代と昭和初期には市内水間の旧家中野家で「水間焼」が焼かれていました。

明治時代には、中野弥平治（やへいじ）という人物が素焼きの茶陶器を中心とした焼物を作っていました。弥平治が焼物を制作した期間はほんの数年間で、彼が焼いた作品は数点が現存するのみです。

弥平治の孫にあたる中野守（まもる）は、昭和初年ごろから祖父の焼物を引き継いで本格的に陶芸家としての道を歩み始めました。

1935年（昭和10年）、守は自宅の裏庭に5基の登り窯や煉瓦作りの試験窯を備えた陶器工場を建設し、みずからは雅号（がごう）を「梧月」、焼物は「水間焼」と名づけ、水間の土で本格的な焼物作りをはじめました。翌1936年（昭和11年）以降は泉州各地や大阪市内で個展を開催し、その多くが新聞記事に取り上げられたことで、次第に梧月作の「水間焼」の名前は広まっていきました。

しかし、そうした矢先の1940年（昭和15年）、梧月は急逝し、以後梧月の「水間焼」は人びとの記憶から薄れていきました。



中野梧月による水間焼の制作



錆絵（さびえ）風景丸額皿

梧月が焼いた昭和の「水間焼」は祖父と同じく短期間で幕を下ろしましたが、数年間に数千点ともいわれる作品を生み出しています。その高い成形技術を生かした中国や朝鮮、日本の焼物を写した作品や、若いころから学んだ南画（水墨画）の才能を生かして絵付けを施したものなど、芸術的な作品が現在も残されています。

※中野梧月が制作した作品については、平成27年3月7日（土）から4月26日（日）まで、貝塚市郷土資料展示室特別展「まほろしのやきもの 昭和の水間焼」で展示します。

文化財防火デー消防訓練を行いました

平成 27 年 1 月 25 日（日）に国宝観音堂（釘無堂）のある市内木積の孝恩寺において、第 61 回文化財防火デー消防訓練を実施しました。

文化財防火デーは、1949 年（昭和 24 年）1 月 26 日に奈良県の法隆寺金堂の火災によって、国宝の十二面壁画の大半を焼損したことを契機に、1955 年（昭和 30 年）から 1 月 26 日と定められました。この日を中心として貴重な文化財を火災・震災などから守るため、全国的に文化財防火運動を実施しています。貝塚市では、孝恩寺や重要文化財建造物のある願泉寺で防火訓練を行い、文化財に対する防火・防災意識の高揚に努めてきました。

今回、寺院関係者や消防本部、地元消防団などが一丸となって消火活動にあたった訓練の様子を紹介します。



①孝恩寺より出火したと想定し、境内の通報器により消防署へ通報します。



②仏像等の文化財に見立てた箱を境内から搬出し延焼から守ります。



③消防車が到着し、放水用のホースを伸ばします。



④寺に隣接する川へポンプを設置し、消火作業に必要な水を汲み上げます。



⑤放水は境内から川へ向かって行い、訓練で観音堂を水損しないようにします。



⑥訓練後、消防士たちは訓練本部に整列。作業報告や講評を行いました。

市内の古文書調査から

◆ 沢町会共有文書・八品（やしな）神社八人衆共有文書

平成 25 年 12 月より、沢町会の依頼を受けて、古文書調査に着手しました。合わせて 734 点を数える古文書は、①農業に関すること、②地車（だんじり）に関すること、③沢・脇浜との浜地争論に関すること、④八品神社に関すること、に大きく分けられます。

<①農業に関すること>

江戸時代に沢村を含む近木庄（こぎのしょう）と呼ばれた地域では、主に米作りが行われていましたが、綿作も盛んでした。米よりも収益の上がる木綿は田んぼでも栽培されるほどでした。また、現在では沖縄をはじめ暖かい地域で作られているイメージのある甘蔗（さとうきび）の栽培も行われていました。さらに、生姜（しょうが）栽培も飛びぬけており、価値の高い商品作物として、岸和田藩が生産を一元管理するため生姜作取締方（しょうがづくりとりしまりかた）を設置し、冥加銀（みょうがぎん）を賦課するほどでした。

<②地車に関すること>

かつては沢・浦田共同で行われていた地車についての記録は、1914 年（大正 3 年）に遡り、1956 年（昭和 31 年）までのこされています。会計に関するもののほか曳行許可申請書類も見られます。

<③沢・脇浜との浜地争論に関すること>

江戸時代に岸和田藩から脇浜・鶴原は漁業権を持つ「浦」として位置づけられていましたが、その両者に挟まれた沢は「浦」としての権利が藩から認められていませんでした。これを根拠に浜地の権利を主張する脇浜と、生姜栽培に必要な土砂の採取をこれまでもずっとおこなってきたとする沢との対立が 1924 年（大正 13 年）頃争論に発展したようです。当時、沢は南近義村、脇浜は北近義村に分かれていたことが対立に拍車をかけたのかも知れません。最終の判決文がのこっておらず、結果については明らかとはなっていません。

<④八品神社に関すること>

櫛の神様として多くの信仰を集めてきた八品神社は、江戸時代には神社を維持させるための田地を持っていました。また、1889 年（明治 22 年）大規模な改修をおこなった際には、全国の櫛に関わる職人や問屋・仲間らから寄付が集められ、拝殿・鳥居・灯笼・狛犬（こまいぬ）・手水鉢（ちょうずばち）などが整備された記録がのこされています。



八品神社を写した絵葉書

さらに、昨年 7 月には、「和泉国日根郡沢村切図」や印判 11 点の追加調査も行いました。町会では沢の基礎的な地図となる切図の修復および複製化を進めるなど、地元の歴史を後世に伝える古文書の保存に力を注いでいます。

これら今回調査で明らかになった地域の歴史について、今年2月1日に沢町会・浦田町会の主催による「第15回さわやかコミュニティ」において、担当者が地元の方々に調査成果を報告しました。社会教育課では、今後も引き続き歴史的な古文書の保存・活用に積極的に取り組んでいきます。



古文書講座 - 市内にのこる身近な古文書 -

◆「江戸時代の家普請」

平成26年10月8日から11月12日にかけて毎週水曜日の5回にわたり、「江戸時代の家普請」と題して古文書講座を開催しました。

今回は、大工を中心に進められる江戸時代の家づくりについて、普請にたずさわった人たちの賃金、材木や釘の数・値段などが記録された普請帳をはじめ、堺奉行所や大工頭中井家に提出した願い書などをもとに当時の人びとの営みを明らかにしました。



普請帳には、棟上げ式での内祝いや振る舞いの料理などもこと細かく書きあげられていました。また、神社の修復願いには、公儀（幕府）から禁止されている工事は一切行わず、新旧の建物の絵図を提出すると述べています。日光東照宮は装飾をこらした建物ですが、一般の神社や寺はぜいたくな作りを禁止し、現状維持でそれ以上に改築することは許されませんでした。江戸時代の「住」に対する政策の一端がかいま見られたのではないのでしょうか。

このように、古文書講座では江戸時代の古文書をもとに、当時の人びとの暮らしに注目していますので、奮ってご参加ください。

□古文書講座 46（通算 217 回～ 221 回）開催のお知らせ

テーマ：岸和田藩の御触書

日時：第1回 平成27年3月4日、第2回 3月11日、第3回 3月18日
第4回 3月25日、第5回 4月8日
いずれも水曜日午後1時30分～4時

会場：貝塚市民図書館2階視聴覚室

資料代：100円

申込：住所、氏名、電話番号を明記の上、はがき・Eメール・FAX、電話いずれかで、下記まで事前にお申込みください。

連絡先 〒597-8585 貝塚市畠中1丁目12-1（貝塚市民図書館2階）貝塚市郷土資料室
TEL 072 (433) 7205 / FAX 072 (433) 7107

E mail shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

平成 26 年度の埋蔵文化財調査

平成 26 年度の発掘調査は、平成 27 年 1 月末現在、遺跡内の確認・発掘調査を 8 件、遺跡範囲外の試掘調査を 2 件実施しました。調査の中から、堤三宅遺跡と千石堀城跡の出土品を紹介します。

堤三宅遺跡の調査

堤三宅遺跡は、貝塚市堤に位置する中世（鎌倉～室町時代）の集落跡の遺跡です。宅地造成に先立って調査を行いました。調査では柱穴 3 基を発見し、主に平安時代から中世にかけての土器が出土しました。



堤三宅遺跡出土 須恵器甕



堤三宅遺跡出土 須恵器



堤三宅遺跡出土 瓦器

千石堀城跡の調査



第 1 区 堀

昨年度に引き続き千石堀城跡の調査を行いました。どんなつくりの城なのか、造られて 430 年以上たつてどれくらい壊されずにのこっているのかについて調べています。今回の調査では山頂周辺で幅 5 m 以上、深さ 2 m 以上の堀を発見し、堀の中からは中世（鎌倉～室町時代）の瓦や 16 世紀末頃の土師質甕（はじしつかめ）が出土しました。



千石堀城跡出土 土師質甕



千石堀城跡出土 平瓦



第3区 堀



千石堀城跡出土 丸瓦



千石堀城跡出土 平瓦

遺跡名	調査 件数	調査面積 (㎡)	遺跡名	調査 件数	調査面積 (㎡)
堤三宅遺跡	1	35.000	新井・鳥羽北遺跡	1	130.700
堀遺跡	1	12.400	千石堀城跡	1	43.400
半田北遺跡	1	7.700	海塚遺跡	1	7.000
沢城跡	1	6.900	遺跡外	2	15.100
明楽寺跡	1	39.800			
合 計				10	298.000

平成26年度発掘調査一覧表

丸山古墳の埴輪（ハニワ）を復元

貝塚市地蔵堂には前方後円墳「丸山古墳」があり、国の史跡に指定されています。平成12年から平成14年にかけて行った古墳の外周整備工事を行う際の発掘調査で、墳丘に並べられた埴輪列の一部を発見しました。

筒状のかたちから円筒埴輪と呼ばれる4個体分の埴輪は、墳丘から取り上げて洗浄・復元し、平成18年度以降市指定文化財として毎年展示を行ってきました。発見から10年以上が過ぎ、破片の接合に使っていた接着剤がはがれて状態が悪くなってきたため、補強作業をはじめたところ、新たにたくさんの破片を接合することができてこれまでより大きく復元することができました。今後は、さらに石膏（せっこう）で補強した上で展示等で紹介する予定です。



円筒埴輪 1 2 3 4

埴輪列と葺石（ふきいし）の様子



↓ 復元



↓ 復元



円筒埴輪 2



円筒埴輪 3

先生も学びを深めています「誇れる貝塚」講座

貝塚市では、「夢」を持ち、たくましく生き、貝塚で学び育ったことを「誇」らしく語ることでできる子どもの育成をめざしています。そんな子どもたちをはぐくむ学びが「貝塚学」です。「貝塚学」の一環として、教職員自身が広く、深く貝塚を知るために「誇れる貝塚」講座を実施しています。

今年度第1回の講座は、昨年12月に、「貝塚の雑学博士になろう！」と題して、馬場・木積周辺のフィールドワークをしました。水間観音駅から水間公園・遍照寺・孝恩寺等を巡りました。孝恩寺では国宝観音堂と重要文化財の仏像群を見学し、歴史深い貝塚の一面と出会うことのできた一日でした。

第2回は今年1月、貝塚市文化財保護審議会委員であり和歌山大学名誉教授の藤本清二郎氏を講師に、「貝塚市内に残る古文書から見えてくること」と題した講演会を開催しました。地域にのこされた実物の古文書から人びとの暮らしを感じる機会となりました。貝塚市の歴史は身近なところにあふれていることを知り、そのことを子どもたちに伝えるために、学校の先生も学びを深めています。



第104回かいづか歴史文化セミナー「春の町家の雛めぐり」

貝塚寺内町のまちなみと、「第13回春の町家の雛めぐり」（3月20日（金）～29日（日）開催）の会場を見学します。

開催日時：3月22日（日）午後1時00分～午後3時30分（雨天決行）

集合場所：南海貝塚駅改札前

定員：30名（先着順）

参加費：無料

申込：住所・氏名・電話番号を電話・ファックス・Eメールで下記までお申し込みください。

申込・問合せ先 貝塚市郷土資料室 電話 072(433)7205、Fax072(433)7107、

Eメール shiryoushitsu@city.kaizuka.lg.jp

かいづか文化財だよりテンプス 55号

平成27年2月27日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel (072) 433-7126 Fax (072) 433-7107

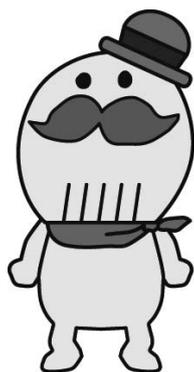
Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

印刷：(株)帯谷印刷所

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年4回発行：各1,000部

印刷単価：41.58円



貝塚市イメージキャラクター

つげさん

貝塚市特産品「つけ欄」をモチーフとしてデザイン。イベントごとが大好き。普段はのんびり、でも祭りには萌えます。

